

相互提案協働事業 報告書

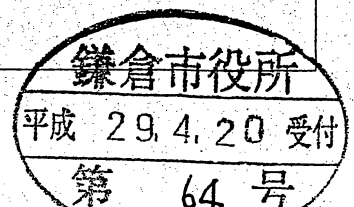
平成29年4月20日

(宛先) 鎌倉市長

住所  
郵便番号  
団体名 玉縄城址まちづくり会議  
代表者氏名 荒井 章

平成28年度事業報告会に先立ち、協働事業の実施状況・実施結果について、下記のとおり報告します。

事業名	戦国時代の鎌倉の歴史遺産デジタルアーカイブ事業
事業概要	<p>鎌倉市の文化財、歴史まちづくり、歴史観光のために戦国時代の歴史を再評価し、それに基づく歴史資料の収集と活用のためのデータ化を目指して、以下の事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の分野別に調査項目の洗い出しと評価整理に基づくリストづくり</li> <li>・「玉縄城域遺構発掘調査」、「鎌倉の埋蔵文化財」のデジタルデータ化及び、古文書リストの調査と解釈文作業</li> <li>・玉縄城址の現地調査及び催事、石碑、石仏、道祖神等のリスト化</li> <li>・上記の成果の一部の発表（平成28年度末に玉縄学習センター展示コーナーにおいて）</li> </ul>
市担当課	文化財課、国宝館
事業実施期間 (継続中の事業については、継続に○をつける)	<p>開始 平成28年5月16日 ~ 継続</p> <p>終了 平成29年3月31日</p>
協働の形態	市民活動団体提案 協働事業
事業費	383,556円



<p>事業目的の達成 (継続中の事業については、現時点で判断する)</p>	<p>&lt;達成できた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当会の文化委員会において、考古学・城郭史・歴史学者の意見に基づき、分野別資料の調査項目出しと評価整理を行った。</li> <li>・歴史学者の協力を得て、玉縄城に関連する古文書(資料・文献)のリスト化を行った。</li> <li>・上記リストのうちの重要文書について、鎌倉国宝館、藤沢市文書館、資料所有者の協力を得てデジタルデータ化を行った。</li> <li>・「玉縄城域遺構発掘調査」、「鎌倉の埋蔵文化財」について、文化財課と協議して選んだ史料を、当会の写真専門家が43日かけてデジタルデータ化した。</li> <li>・玉縄城址の西南部の現地調査(縄張り測量を含む踏査)を行った。その調査・研究の成果を基に3枚の地図を作成した。</li> <li>・以上の成果の一部を活用した冊子「鎌倉・玉縄城の歴史的特質を明らかにする」を作成し、パネルとともに玉縄学習センター展示コーナーに展示した。展示と併せて、前記の冊子の無料配布を行った。</li> <li>・そのほか、当会主催による①城址遺構見学会と、②歴史セミナー「相模陣の発掘調査」(於玉縄学習センター)を開催した。</li> </ul> <p>&lt;達成できなかった点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・催事、石碑、石仏、道祖神等のリスト化は、他の組織(玉縄歴史の会)が取り組んでいたもので、実施しなかった。</li> <li>・古文書の解釈文作業については、数名が専門家の説明を受けたが、素人が取り組むのにはハードルが高過ぎることが分かったため実施しなかった。</li> </ul>
<p>成果・効果</p>	<p>この事業による成果は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文献資料7点のデータは、伊藤氏の論文「早雲と玉縄北条氏と玉縄城」に活用した。</li> <li>(2) 遺構調査のデジタル化映像を、玉林氏の論文「鎌倉の城郭遺構の変遷と玉縄城跡」に活用した。</li> <li>(3) セミナーでは「相模陣の発掘調査」で未発表の映像史料の公開、鼎談「発掘から見えた玉縄城」を通して、早雲の城・綱成・氏繁時代の城を検証することができた。</li> <li>(4) 中世の鎌倉の遺構を踏襲する東西10kmに及ぶ地形図『玉縄城・玉縄城域図』、初期の玉縄城と想定される、鎌倉街道上之道に接する『玉縄城外郭(西南部)概要図』、赤星直忠氏の図面にその後確認された遺構を書き足した『玉縄城中心部旧状図』を完成することができた。</li> <li>(5) 文化庁事業の「玉縄城址遺構群」の成果報告を活用して、独自の冊子『鎌倉・玉縄城の歴史的特質を明らかにする』を発行し、玉縄学習センターなどで配付した。</li> </ol> <p>これらによって、知られていなかった玉縄城の全体像を提示し、市民に対する地域歴史の啓発を進めることができた。</p>
<p>課題・問題点 (解決・改善の方法についても記入)</p>	<p>単年度事業であったため、事業成果の活用面で長期・継続的な対応が難しかった</p>

<p>今後の展望</p>	<p>今後、市民への地域歴史の啓発活動に、本事業の成果を用いることで、より多くの資料を使った活動ができるようになる。</p> <p>その際は、市の協力や情報提供等があれば、本事業の成果も広く波及すると考える。</p> <p>市政方針であっても市単独では推進が困難で、市民の参加があれば実現可能という事業については、「協働事業」として大胆に広げていくことが望ましい。</p>
--------------	--

添付資料

- ・ 事業実施概要
- ・ 収支決算
- ・ 支出内訳
- ・ 評価シート
- ・ 成果物
  - ① 報告冊子「鎌倉・玉縄城の歴史的特質を明らかにする」A4 20 ページ
  - ② 資料・写真集（古文書リスト、古文書写真、探索会と歴史セミナーの報告書、キララ玉縄郷土資料コーナー展示）
  - ③ 歴史セミナー「相模陣の発掘調査」写真集、相模陣調査平面図

「戦国時代の鎌倉の歴史遺産デジタルアーカイブ事業」の実施概要

平成 28 年 5 月 16 日～29 年 3 月 31 日

月 日	場 所	内 容 会議と作業（調査、取材、作図、構成、編集、運営）	参加者
5/19(木)	多目的室	文化委員会 分野別資料の調査・項目出し、リスト作成	荒井、大竹、松田
6/02-6/29	文化財課	デジタル化作業 「七曲坂航空写真とコーゴ鎌倉・植木」	鈴木 荒井
6/2(木)	多目的室	文化委員会 ・古文書重要リスト選定（伊藤一美氏）	荒井、松田
6/3(金)	文化財課	デジタル化対象5カ所資料の検討	荒井
6/7(火)	鎌倉国宝館	第2回会議 古文書リスト確認と重要文書の検討	荒井、松田
7/05(火)	アトリエ	「玉縄城・玉縄城域」取材、(切岸斜面、川) 記入	大竹
7/6～8/23	藤沢古文書館	藤沢市古文書館に文書借用依頼、デジタル化依頼、受取り	荒井、松田
7/08(金)	アトリエ	「玉縄城・玉縄城域」(旧道、城・砦・貿易拠点) 記入	大竹
7/12(火)	アトリエ	「玉縄城・玉縄城域」(切通・山越道、宿・寺社) 記入	大竹
7/14(木)	アトリエ	「玉縄城中心部旧状図」作画	大竹
7/15(金)	アトリエ	「玉縄城中心部旧状図」作画	大竹
7/23(土)	多目的室(1)	文化委員会「玉縄城・玉縄城域と「玉縄城中心部旧状図」完成、遺構名、地名等確認、パソコン作業、作図	荒井、大竹、松田
7/26(火)	アトリエ	「玉縄城外郭(西南部)概要図」遺構記入	大竹
7/27(水)	アトリエ	「玉縄城外郭(西南部)概要図」文字入れ、解説文作成	大竹
7/28(木)	多目的室	文化委員会 3枚の地図のレイアウト(玉林、伊藤、大竹)	荒井、大竹
8/10-8/29	鈴木自宅	デジタル化作業「城廻打越329-1」	鈴木、荒井
8/16(火)	鎌倉国宝館	第3回会議 国宝館所蔵光明寺「為昌」の映像依頼	荒井、松田
9/09(金)	多目的室(2)	文化委員会 3人の論文レイアウト案、写真データ受取り	荒井、大竹、松田
9/30(金)	市役所4階	資料の確認、新編相模風土記稿との検証、調査写真確認	荒井、大竹、松田
10/04-10/05	鈴木自宅	デジタル化作業「鎌倉の埋蔵文化財」	鈴木、荒井
10/06(木)	多目的室(3)	文化委員会 挨拶文依頼、全ページの構成、レイアウト	荒井、松田
10/07(金)	荒井自宅	論文パソコン作業 写真レイアウト、自前写真処理	荒井幸子
10/10(月)	荒井自宅	写真取り込み、デザイン構成 パソコン作業	荒井幸子
10/11(火)	松田自宅	目次、編集後記 パソコン作業	松田明
14(金)	市役所401	編集会議 挨拶文、レイアウト	荒井、大竹、松田
17(月)	市役所401	編集会議 最終稿 文字稿・文化財課へ映像の使用申請	荒井、大竹、松田
10/29(土)	重文古民家	遺構群学術調査報告「シンポジウム」開催	荒井、松田、増川
11/11(金)	キララ鎌倉	報告書に掲載した文書の勉強会	荒井、松田
11/30(水)	鎌倉国宝館	第4回会議 今後の事業の展開、次回は進捗の確認	松田、新谷
12/19(月)	文化財課	デジタル化作業の協議、パネル展の試案提案	荒井
29/1/16(月)	文化財課	永田係長と進捗状況、今後の作業、予算協議	荒井、松田、会長
01/16-2/23	鈴木自宅	デジタル化作業「清泉女学院図書館」2日	鈴木、荒井、松田
1/30(月)	多目的室(4)	文化委員会 冊子試案、編集作業開始	荒井、松田
02/06-2/22	鈴木自宅	デジタル化作業「グリーンマンションとその周辺」	鈴木、松田
2/18(土)	キララ玉縄	城址探索会と歴史セミナー<相模陣の調査報告>	荒井、松田、増川

月 日	場 所	内 容	参加者
2/21(火)	多目的室(5)	文化委員会 報告書編集(デザイン、校正)	荒井、松田
2/22(水)	荒井自宅	報告書編集(デザイン、構成、校正)	荒井、松田
24(金)	荒井自宅	校了、印刷所にデータ送稿。3/8(木)300部納品	
3/09(金)	文化財課	アーカイブ事業報告冊子『鎌倉・玉縄城の歴史的特質を明らかにする』100部文化財課へ納品	松田
3/16(木)	多目的室(6)	文化委員会 パネルの張合わせ	荒井、松田、増川
3/24(金)	キララ玉縄	郷土資料展示コーナー	荒井、松田、増川
3/29(木)	鎌倉国宝館	第5回会議 報告書	荒井、松田

戦国時代の鎌倉の歴史遺産デジタルアーカイブ事業の収支決算

(平成28年5月16日～平成29年3月31日)

単位：円

科目	金額	備考
1 収入の部		
(1) 市からの協働事業負担金	300,000	
(2) 当会からの事業者負担金	83,556	
収入合計 (A)	383,556	
2 支出の部		
人件費	150,000	デジタル化作業 2,000円×43日=86,000円 調査、構成、作表、編集 2,000円×32日=64,000円
謝金	80,000	遺構図、城域図、古文書リスト、原稿料 セミナー講師、探索会案内
交通費	7,400	会議出席
会場使用料	8,800	セミナー、会議、作業
印刷製本費	102,578	冊子、学習センター展示パネル
消耗品費	34,778	USBメモリー、インク、DVD、デコパネ、等
支出合計 (B)	383,556	
収支差額 (A) - (B)	0	

<支出内訳>

人件費

月日	摘要	支出
3/9	鈴木修吉郎 デジタル化作業 2,000×43日	86,000
3/24	荒井幸子(調査、構成、作表、編集、会議) 2,000×20日	40,000
3/24	松田明 (編集、会議、運搬、情報伝達) 2,000×12日	24,000
	計	150,000

謝金

月日	摘要	支出
10/10	大竹正芳 「玉縄城中心部旧状図」作図料	10,000
2/18	伊藤一美 古文書リスト、報告書原稿料	5,000
2/18	齋木秀雄 セミナー 講師料	15,000
2/18	玉林美男 セミナー 講師料	10,000
2/18	伊藤一美 セミナー 講師料	10,000
2/18	大竹正芳 探索会案内料	5,000
3/23	大竹正芳 「玉縄城・城域図」作図料	15,000
	「玉縄城外郭(西南部)概要図」作図料	10,000
	計	80,000

交通費

月日	摘 要	支出
3/29	荒井@500×10 (6/3, 6/7, 8/16, 9/30, 10/14, 17, 11/11, 12/19, 1/16, 3/29)	5,000
3/29	松田@200×12 (6/7, 10, 17, 7/8, 13, 8/23, 9/2, 5, 11/22, 2/24, 3/9, 29)	2,400
	計	7,400

会場使用料

月日	摘 要	支出
11/11	玉縄学習センター キララ鎌倉 委員会会議室使用料	850
1/26	玉縄学習センター セミナー会場費	750
3/24	玉縄ふるさと館多目的室 1,200×6回	7,200
	計	8,800

印刷製本費

月日	摘 要	支出
8/23	ビックカメラDVD 藤沢市古文書館@257×7枚外	2,354
3/8	セントショウナン 報告書300部	99,792
3/14	セントショウナン 表紙と挨拶 A3 2枚	432
	計	102,578

消耗品費

月日	摘 要	支出
6/19	ノジマ メモリー3本 (事務局用)	4,794
8/13	ノジマ インク、等	7,843
10/26	ノジマ SDメモリー、USBメモリー (講師用)	6,500
11/27	ノジマ デジタル用DVD	1,641
12/23	ノジマ プリンターインク	5,495
1/21	ノジマ プリンターインク	2,582
2/06	コーナン のり3本、文具	1,950
2/17	コーナン コピー代	250
3/09	コーナン デコパネ A1 3枚	3,723
	計	34,778

謝金・人件費明細

謝金 大竹正芳（日本画家、日本城郭史学会委員）謝金の基準 5,000×7日=35,000円

月日	場所	内容	日数
7/05(火)	アトリエ	「玉縄城・玉縄城域」取材、(切岸斜面、川) 記入	1
7/08(金)	アトリエ	「玉縄城・玉縄城域」(旧道、城・砦・貿易拠点) 記入	2
7/12(火)	アトリエ	「玉縄城・玉縄城域」(切通・山越道、宿・寺社) 記入	3
7/14(木)	アトリエ	「玉縄城中心部旧状図」作画	4
7/15(金)	アトリエ	「玉縄城中心部旧状図」作画	5
7/26(火)	アトリエ	「玉縄城外郭(西南部) 概要図」遺構記入	6
7/27(水)	アトリエ	「玉縄城外郭(西南部) 概要図」文字入れ、解説文作成	7

「玉縄城・城域図」と「玉縄城中心部旧状図」、「玉縄城外郭(西南部) 概要図」は、今回の協働事業の成果として重要な図となった。

人件費 鈴木修吉郎 玉縄城址発掘作業デジタル化作業 2,000円×43日=86,000円

月日	内容	作業日数	作業補佐
6/02-6/29	「七曲坂航空写真とコーボ鎌倉・植木」 1面、2面 埃取り、識別、スキャンニング、補正、デジタル化 70枚/396枚	12日	松田
8/10-29	②城廻打越329-1 打越大手門 左 102枚デジタル化	13日	荒井
10/04-10/05	③発掘作業デジタル化作業「鎌倉の埋蔵文化財」	2日	荒井
01/28-1/29	④発掘作業デジタル化作業「清泉女学院図書館」	2日	松田
02/06-2/22	⑤発掘作業デジタル化作業「グリーンマンションとその周辺」	14日	松田
	計	43日	

人件費 松田明(編集、校正、会議、運営、運搬、情報伝達)2,000×12日=24,000

月日	場所	内容	作業日
5/19(木)	多目的室	文化委員会 協働事業の分担協議	1
7/23(土)	多目的室	文化委員会 大竹「玉縄城・玉縄城域」図文字入れ	2
8/16(火)	鎌倉国宝館	第3回会議 国宝館所蔵光明寺「為昌」の映像依頼	3
9/09(金)	多目的室	編集会議 原稿レイアウト、写真データ受取り	4
10/06(木)	多目的室	編集会議、作業 挨拶文依頼、構成、レイアウト	5
10/11(火)	松田自宅	目次、編集後記、パソコン作業	6
10/17(月)	市役所401	編集会議 最終稿 文字稿・映像の使用申請	7
11/30(水)	鎌倉国宝館	第4回会議 今後の事業の展開、次回は進捗の確認	8
1/30(月)	多目的室	文化委員会 冊子試案、編集作業開始	9
3/16(木)	多目的室	文化委員会 パネルの張合わせ	10
3/24(金)	キララ玉縄	郷土資料展示コーナー	11
3/29(水)	鎌倉国宝館	第5回会議 報告書	12



人件費 荒井幸子(調査、デザイン構成、編集、作図、運営) 2,000円×20日=40,000円

月 日	場 所	内 容	作業日
5/19(木)	多目的室	文化委員会 分野別資料の調査・項目出し、リスト作成	1
6/2(木)	多目的室	文化委員会 ・古文書重要リスト選定(伊藤一美氏)	2
7/6~8/22	藤沢古文書館	藤沢市古文書館に文書借用依頼、デジタル化依頼	3
7/23(土)	多目的室(1)	文化委員会「玉縄城・玉縄城域と「玉縄城中心部旧状図」完成、遺構名、地名等確認、パソコン作業、「戦国武将の生没年」作図	4
7/28(木)	多目的室	文化委員会 3枚の地図のレイアウト(玉林、伊藤、大竹)	5
8/16(火)	鎌倉国宝館	第3回会議 国宝館所蔵光明寺「為昌」の映像依頼	6
9/09(金)	多目的室(2)	文化委員会 3人の論文レイアウト案、写真データ受取り	7
9/30(金)	市役所4階	資料の確認、新編相模風土記稿との検証、調査写真確認	8
10/06(木)	多目的室(3)	文化委員会 挨拶文依頼、全ページの構成、レイアウト	9
10/07(金),	荒井自宅	論文パソコン作業 写真レイアウト、自前写真処理	10
10/10(月)	荒井自宅	写真取り込み、デザイン構成 パソコン作業	11
14(金)	市役所401	編集会議 挨拶文、レイアウト	12
17(月)	市役所401	編集会議 最終稿 文字稿・文化財課へ映像の使用申請	13
10/29(土)	重文古民家	遺構群学術調査報告「シンポジウム」開催	14
11/11(金)	キララ鎌倉	報告書に掲載した文書の勉強会	15
29/1/16(月)	文化財課	永田係長と進捗状況、今後の作業、予算協議	16
1/30(月)	多目的室(4)	文化委員会 冊子試案、編集作業開始	17
2/21(火)	多目的室(5)	文化委員会 報告書編集(デザイン、校正)	18
2/22(水)	荒井自宅	報告書編集(デザイン、構成、校正)	19
3/16(木)	多目的室(6)	文化委員会 パネルの張合わせ	20

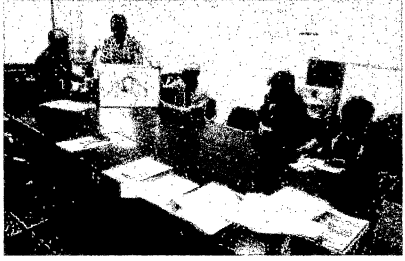
戦国時代の鎌倉の歴史遺産デジタルアーカイブ事業  
資料・写真集



4月5日第1回会議



4月27日展示替え



5月13日



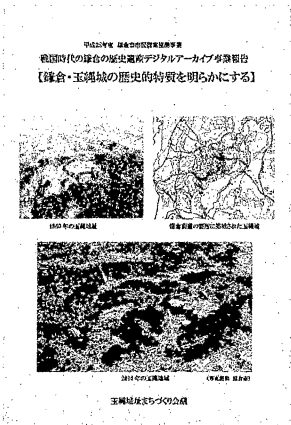
6月2日



7月7日



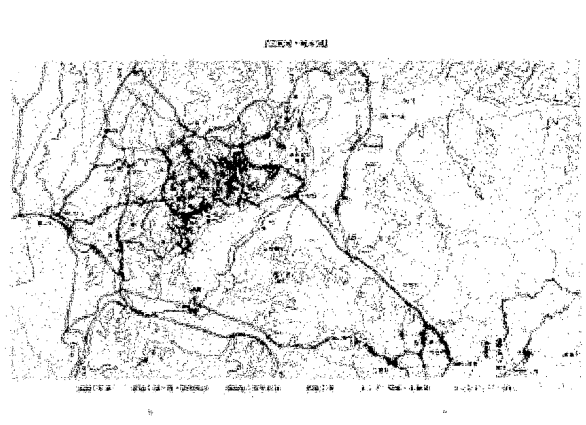
10月29日 シンポジウム



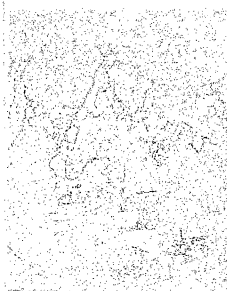
事業報告冊子



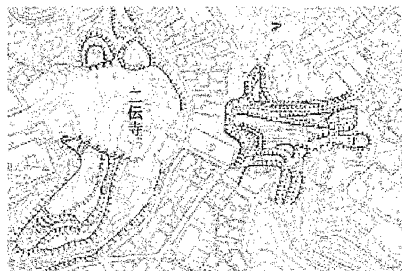
玉縄城中心部旧状図の下図



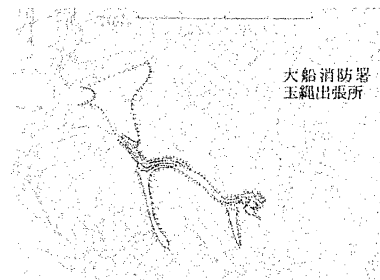
『玉縄城・城域図』の完成図



玉縄城外郭(西南部)概要図



二伝寺周辺



香花院跡

1 中世玉縄城関係史料の分類

①歴代城主に関するもの

②地域、寺社に関するもの

③中世城郭に関するもの

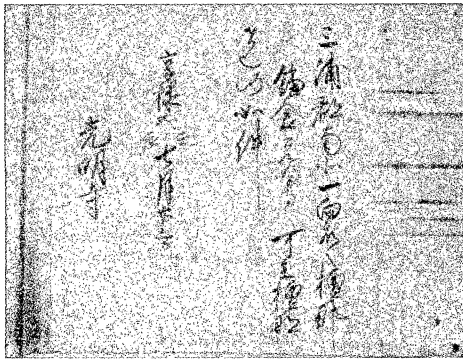
\* 出典は佐藤博信編『玉縄北条氏関係史料集』（千葉大学文学部史学科佐藤研究室刊 2010）

2 デジタル化したい主要史料

①歴代城主に関するもの

- ・大永4年4月10日北條家制札（2号 関山家文書）⇒玉縄と毛呂への通行に印使用
  - 享禄5年7月23日北條為昌朱印状（10号 光明寺文書）⇒為昌使用「新」印
  - ・年未詳正月14日北條為昌書状（22号 相承院文書）⇒書札礼でも最高の礼書
  - ・天文13年9月24日北條綱成禁制（27号 安房妙本寺文書）⇒仮名「孫九郎」初出
  - ・天文18年9月18日北條為昌室朝倉氏像銘（31号 大長寺所蔵）⇒改名綱成、一門名
  - 天文20年5月26日北條綱成禁制（37号 岩本院文書）⇒江の島管理とハト
  - （永禄4年）3月4日北條康成（氏繁）制札（68号 岩本院文書）⇒「公界」と住民関係
  - ・永禄4年3月5日北條康成制札（69号 鶴岡八幡宮文書）⇒門前の管理
  - ・元龜3年卯月5日北條氏繁書状（132号 香山文書）⇒氏政との支配の差異
  - ・元龜3年卯月9日北條氏繁書状（133号 佛日庵文書）⇒屋敷の付与
  - ・元龜4年7月26日北條氏繁書状（137号 県立博物館所蔵 歸源院文書）⇒所役安堵
  - ・（天正2年）閏11月5日北條氏繁書状（150号 鶴岡八幡宮文書）⇒所領の安堵
  - ・天正2年閏霜月5日鶯谷内道場鉢銘（152号 稲垣頭之助所蔵）⇒地元玉縄に伝来
  - 天正6年2月19日北條氏繁朱印状（168号 森文書）⇒氏繁朱印アリ
  - ・天正6年林鐘（6）月24日北條氏葬書状（176号 白川文書）⇒外交取次役
  - ・天正10年5月4日北條氏勝判物（193号 萩野文書）⇒部下への統制管理
  - ・（天正10年）壬午5月8日北條家定書（194号 榊原武勇氏所蔵文書）⇒氏勝方人足よる足柄城普請
  - ・天正11年5月12日北條氏勝・直重連署状（199号 下田長楽寺文書）⇒地域城代職務
  - ・（天正14年）ひのへいぬ2月29日北条時勝朱印状（218号 栗原清一所蔵 鈴木文書）  
⇒氏勝専用の朱印状 「玉縄カ」
  - ・（天正17年カ）10月8日北條氏勝書状（224号 鶴岡八幡宮文書）⇒人足徴収の配慮
  - （天正18年）4月7日北條氏勝判物（229号 岩本院文書）⇒「玉縄」（花押）と記載
  - （天正18年）卯月23日豊臣秀吉朱印状（245号 島津家文書）⇒北條氏勝の走入
- ②地域・寺社に関するもの
- ・天文5年9月14日北條為昌寄進状（14号 鶴岡八幡宮文書）⇒祈祷と護摩、土地安堵
  - 天正18年4月日豊臣秀吉禁制（246号 小塚文書）⇒「玉縄内村岡郷」の安全保障
- ③玉縄城郭に関するもの
- ・永禄6年6月10日北條家朱印状（79号 陶山静彦氏所蔵 江成文書）⇒玉縄御城塀保守管理
  - ・永禄8年8月12日北條家朱印状（85号 陶山静彦氏所蔵文書）⇒玉縄清水曲輪保守管理
  - ・（天正18年）卯月 日北條氏勝判物（231号 小野哲男所蔵文書）⇒「当城（玉縄）堅固の間」
  - （天正18年）5月3日豊臣秀吉朱印状（248号 北條家文書）⇒玉縄城明け渡し
- \* 丸印の重要文書を鎌倉国宝館、藤沢市文書館、史料所有者のご協力デジタル化を行った。

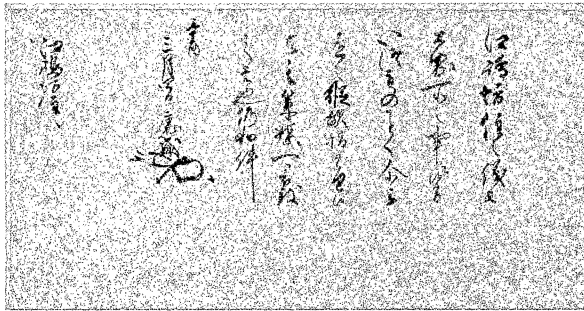
主要古文書デジタル



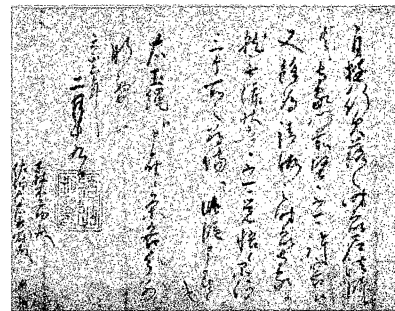
享禄5年7月23日北條為昌朱印状  
(光明寺文書)



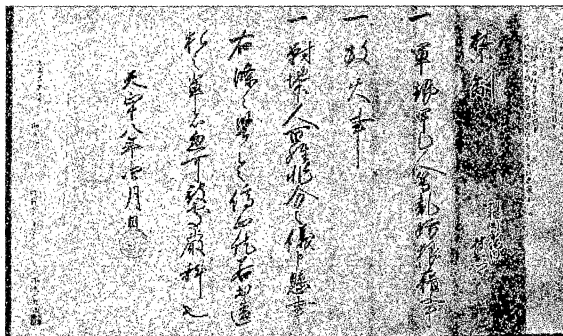
天文20年5月26日北條綱成禁制  
(岩本院文書)



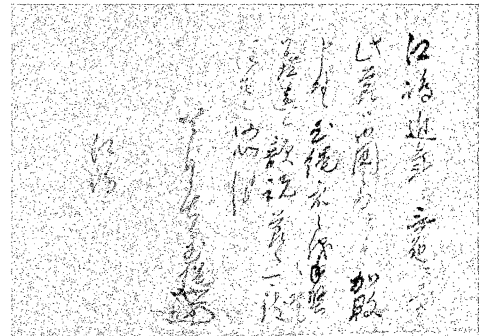
永禄4年3月4日北條康成(氏繁)制札  
(岩本院文書)



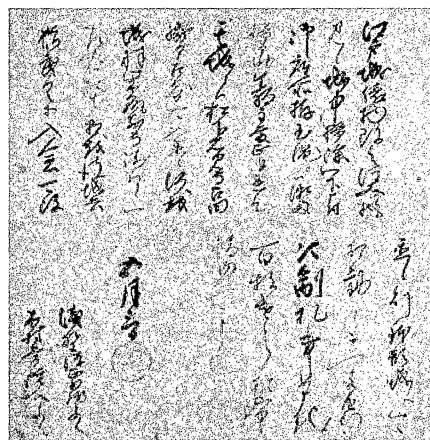
天正6年2月19日北條氏繁朱印状  
(森家所蔵)



天正18年4月日豊臣秀吉禁制  
(ID86文書)



天正18年4月7日北条氏勝判物  
(岩本院文書)



天正18年)5月3日豊臣秀吉朱印状  
(北條家所蔵) 玉繩城開城時の文書

## 玉縄城址探索会と歴史セミナー<発掘から見えた玉縄城の実像>

平成29年2月18日(土曜日) 10時00分～16時00分  
玉縄城址と玉縄学習センター第一集会室

玉縄城址探索会は、案内人に伊藤一美氏、大竹正芳氏の2班体制を組み、蹴鞠場、三角平場、諏訪壇、東側の遺構群を2時間にわたり巡り、鎌倉市民、遠方からの参加者も含め堪能してもらった。

歴史セミナー<発掘で見えた玉縄城の実像>では、1989年の相模陣発掘作業時のスライドを映しながら齋木秀雄氏が説明。約3000㎡に及ぶ敷地の中心部分から16世紀の池状遺構、杉の並木と側溝、上流からの木樋と分水榭など特別な土木技術が施された3期以上の遺構群が発掘された。城南の重要な谷戸に隠されていたこの戦国玉縄城の大遺構には、後北条氏の16世紀後半の充実期の技術と財力が投下され、「城主級の館」の痕跡を残した、等が語られた。

### 相模陣の発掘調査

1989年に調査された相模陣の様相  
齋木秀雄



拡張区

鼎談:<このお城の機能がとは何だったのか?>では、司会の伊藤一美から三つの柱で質問がなされた。1、館の遺物は何処に? 齋木:他の遺構調査から考えて南の堀に埋めたと考えられる。本丸周辺の谷戸の調査が急務。儀式の場として東側の植谷戸や山居の検証も必要。2、年表から考えた玉縄城の機能は?:築城に1493年から1512年まで掛けた伊勢早瑞の行動には、段階的に「初期の玉縄城」として鎌倉街道上之道の東側一帯の地域があったと思われる。(玉林、伊藤)

3. 初期の「城」は、山陵と谷戸を活用して、交通路を遮断する役割を持つ。河川を活用して堀の役割を持たせてもいる。1580年代は、総構えで敵を中に入れぬ城を目ざした。交易の場として古館橋から村岡に繋がる古道、各谷戸の重臣の館などの総合調査が今後のテーマとして重要であると語られた。



2月18日の【探索会とセミナー】の参加者 34名

	講師、案内	スタッフ
探索会	伊藤、大竹	松田、増川、加藤、荒木、横内、森、新谷
セミナー	齋木、玉林、伊藤	会長、荒井、寺口、團野、新谷、鈴木、松田、加藤、荒木、増川

セミナー報告 鼎談「発掘から見えた玉縄城の実像」

- ・ 鼎談者 齋木秀雄（鎌倉遺跡調査会代表） 玉林美男（鎌倉考古学研究所員）  
伊藤一美（鎌倉考古学研究所理事）

（齋木氏報告）

・ 玉縄城下「相模陣」駐車場地発掘で「庭園跡」発見。砂利を敷設、木製の樋による導水施設。本丸跡直下に位置。戦国末期の遺物類は館南方谷に埋める。時代的には近世初期か。「陣屋」の可能性。植木谷辺は大量の土器出土、儀礼執行の場。尾根筋は土塁残存。

（玉林氏報告）

・ 最初の「玉縄城」とは「二伝寺砦」の可能性。残存する玉縄城跡は北西側中心の造形。「関谷」など掘切で谷を仕切る構造。いくつもの「尾根」と「谷戸」を結ぶ城のイメージあり。旧鎌倉「上ノ道」を城の中に取り込む構造化。

（伊藤氏のまとめ）

・ 伊勢宗瑞による小田原城占領（永正2）から玉縄城取りたて（同9）までの時間差は山内上杉氏を睨んでの、武蔵進出構想と地域整備の時間。「高谷砦」「おんべ砦」あたりを初期「玉縄城」域と見ることに賛成。

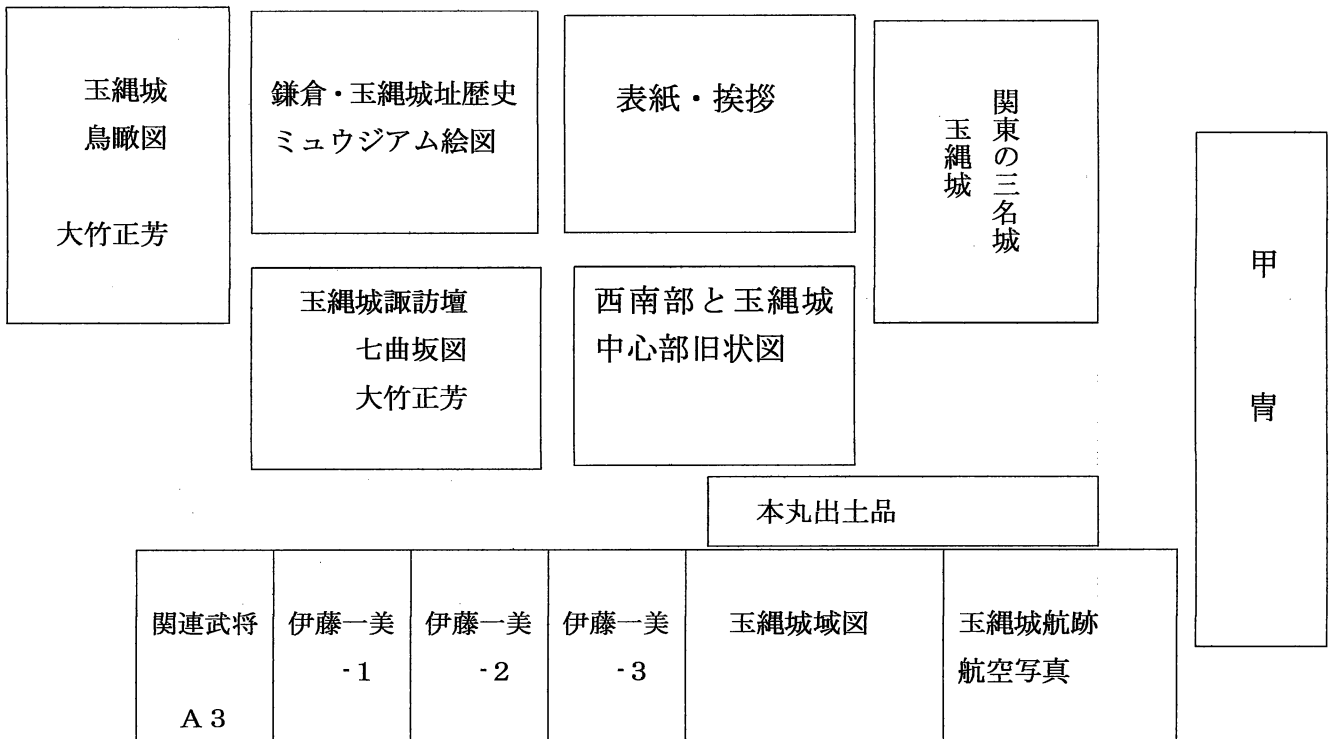
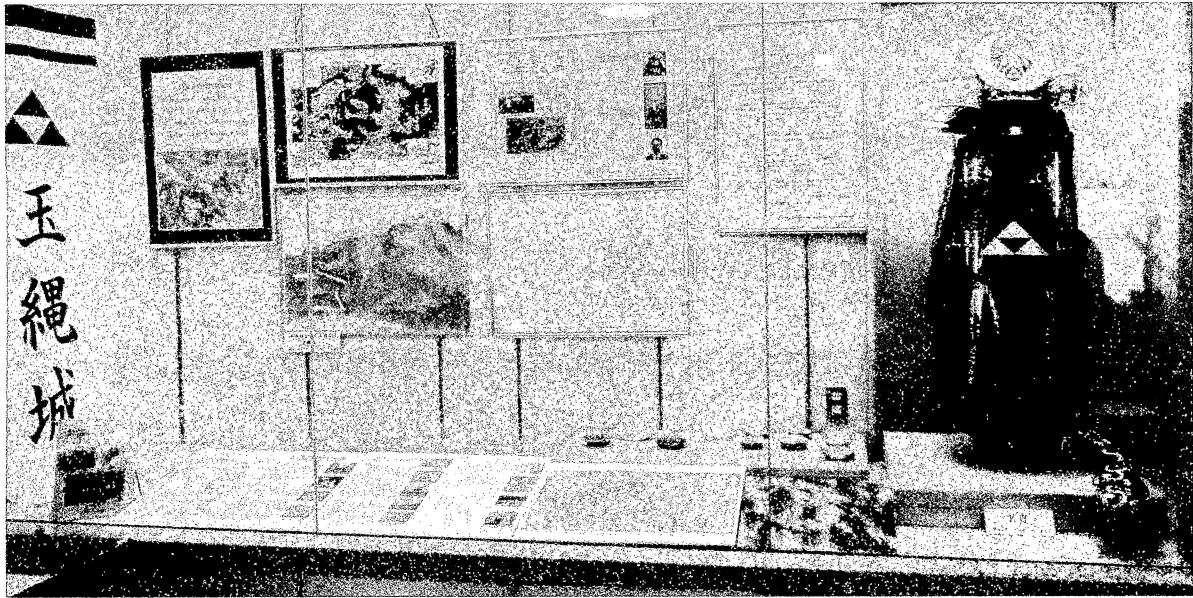
・ 天文元年から10年までの八幡宮造営事業は今に残る「玉縄城」の原型を造り、多くの「職人」技術者が玉縄、鎌倉に集中し、寺社と鎌倉町のインフラ整備とともに北条氏は高度成長時代を築いたと評価。「玉縄城」は「谷戸」を取り込み徐々に拡大化。「庭園跡」も原型はこの時期に遡るのでは、と想定。

・ 玉縄城主北条氏は、小田原本城主北条氏御一家化による「家格向上」を獲得。北条氏の関東進出の起点。歴代当主は絶えず最前線に出陣。

・ 廃城後には「堀」は埋められ、「谷戸」は広がり、旧地域領主の土着化と新たな「城下町」の形成。「水路」跡は埋めて大きく「道路」化へ。

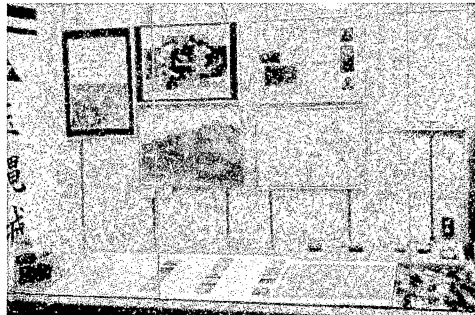
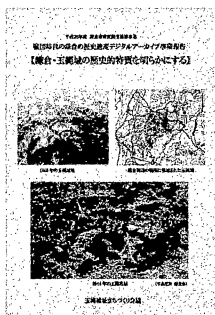
・ 今後の課題は「谷戸」を歴史的に捉えなおすこと。「水路跡」と旧地域領主の住む山麓部分を含めて「玉縄城址」として文献調査と発掘調査を実施していくこと。

玉縄学習センター郷土資料展示コーナーのパネル展示



冊子を開いて展示

チラシ用の机に冊子を置く



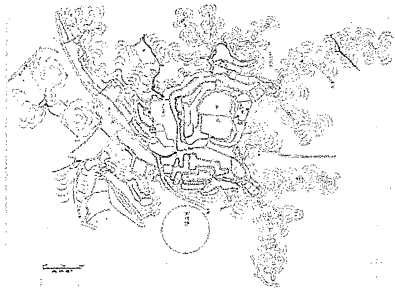
平成 29 年 3 月 24 日(金)9 時 30 分～11 時 (玉林氏、荒井、増川、松田、荒井幸子、新谷)



# 相模陣の発掘調査

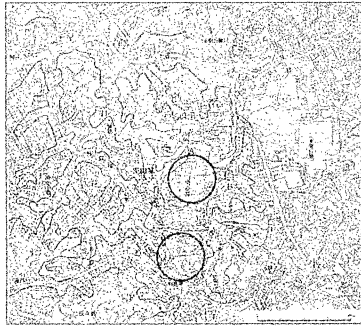
1989年に調査された相模陣の様相  
齋木秀雄

1



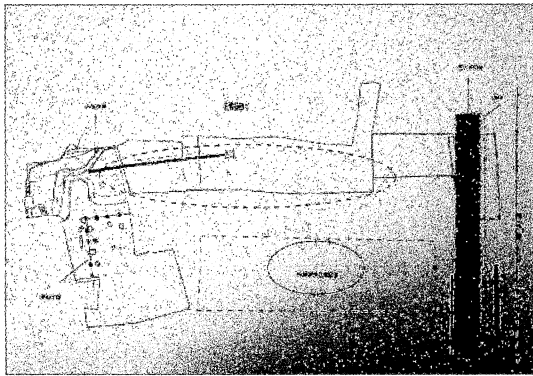
玉縄城縄張り図

2

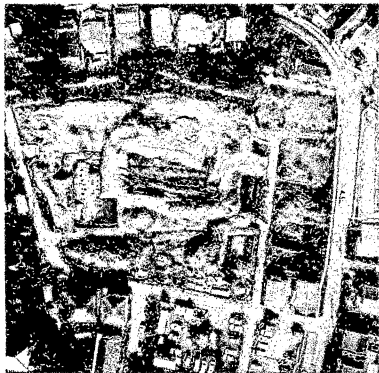


玉縄城中心部

3



4



調査区全景（一部欠）

5



池状遺構

6



拡張区

7



2区池の縁石

8



玉砂利下の東西溝

9



木樋の分水枘

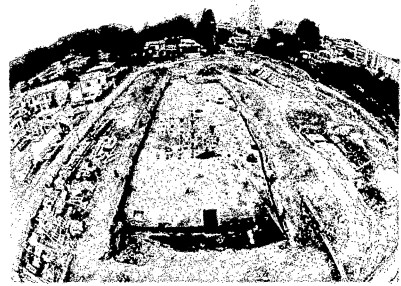
10





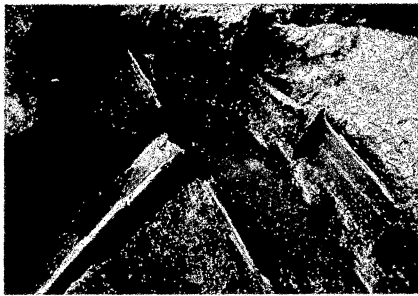
11

い) 木槨 (玉砂利より新し)



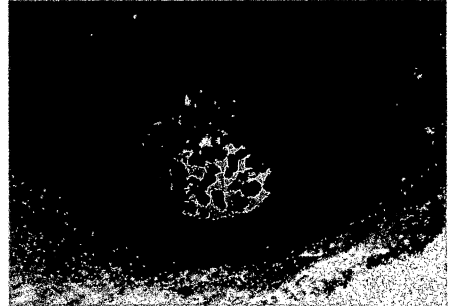
16

6区 (小規模建物)



12

溝と木槨



17

井戸



13

出土した五輪塔



18

5区木槨検出状況



14

出土漆器椀



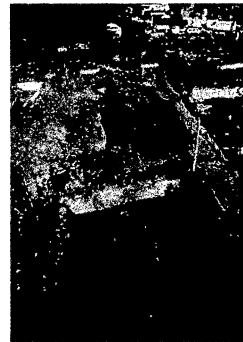
19

道路跡 (南を望む)



15

溝と木槨



20

道路跡 (北を望む)



道路脇の木の根

2 1



柵列と池状遺構

2 4



道路西の木樋

2 2



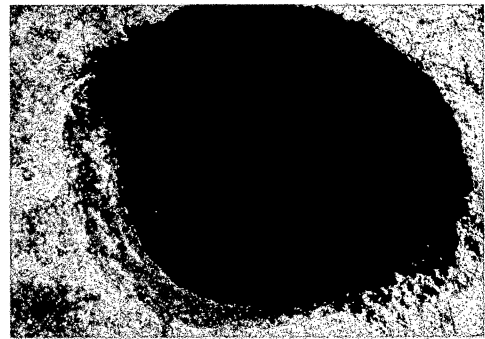
柵列遺構

2 5



道路側溝の護岸

2 3



柵立柱穴の礎板

2 6

### 調査の結果

- 池を持つ大きな空間がある。
- 東側の道路は大手口に向かっていく可能性がある。
- 少なくとも二時期以上の建て替えがある。
- 初期は池を持つ空間
- 次いで池のない空間で木樋がある。
- 最後は木組み溝で囲まれた空間。
- 宝永火山灰が堆積するころまで屋敷は存在していた。
- 池を持つ大きな空間は玉縄城の城主クラスの屋敷を考えている。

鎌倉市植木字相模陣調査平面図 200分の1  
 1989年～1990年の調査図を基に2017年3月に作成。  
 一部は未合成。



## 市民活動団体と鎌倉市による相互提案協働事業 評価シート

(28年度)

事業名 : 戦国時代の鎌倉の歴史遺産デジタルアーカイブ事業

担当課名 : 文化財課 国宝館

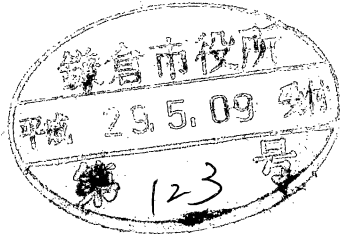
市民活動団体名 : 玉縄城址まちづくり会議

評価項目		役割担当		理由	
		市民活動 団体	行政担当 課		
1	事業着手前	事業の協定書作成に当たり十分な話し合いができたか	○	○	事前に打ち合わせを行い、十分な話し合いができた。
2		事業の協定書作成に当たり対等な立場で話し合いができたか	○	○	対等な立場で話し合いができた。
3		事業の協定書の内容は充分であったか	○	○	協定書の内容に不足はなかった。
4	事業実施過程	事業は当初の事業計画どおりに行われたか	△	△	予定していた事業内容について、別団体が既に実施しているなどの理由から、計画から外すなど見直しが必要な場面があった。
5		事業は対等な立場で進められたか	○	○	対等な立場ですすめることができた。
6		事業は互いの特性や資源を活かしあいながら進められたか	○	○	互いの特性を活かし、事業を進めることが出来た。
7		事業は課題認識、目的、プロセスを共有し協力して進められたか	○	○	互いに協力し、進めることができた。
8		課題が出た時、話し合いの場が持て解決できたか	○	○	必要に応じて打ち合わせの機会を設け、課題を解決することができた。
9	事業実施結果	設定された目標（評価項目）は達成されたか	△	△	デジタル化については、対象資料の選定等に時間を要したため、予定していた資料を全てデジタル化することはできなかった。
10		予算の執行は予定通りであったか	△	△	最終的な執行額は予定より少なくなったが、適切な執行ができた。
11		定められた役割分担は妥当であったか	○	○	妥当であった。
12		定められた役割分担は守られたか	○	○	互いの役割分担を守って事業を実施できた。
13		市民サービスは向上したか	○	○	デジタル化した資料を活用した市民向けセミナー実施により、市民の歴史理解が深まった。また、冊子をより多くの市民に配布することで、普及啓発の効果があった。
14		市民と行政の協働事業は効果があったか	○	○	

				文書と発掘調査写真がデジタル化されたことで、玉縄城に関する一団の歴史資料としての利用が可能になった。
15	今後の事業展望	事業を実施した結果を踏まえ、将来的な視点も含めた総括 (相互協議のまとめ)	(まとめ)	今後、市民団体の実施する普及啓発イベント等の資料に、今回デジタル化を行った資料を用いることができ、より効果的な事業展開が可能となる。鎌倉市としては、写真資料をデジタル化することができ、今後の各種貸出等に供するための準備作業がより簡便になることが期待できる。

各々の評価は 達成：○（10ポイント）    まあまあ：△（5ポイント）    不達：×（1ポイント）

備考：理由欄は、別紙で提出しても結構です。



鎌倉市 地域のつながり推進課 地域のつながり推進担当  
電話23-3000 内線 2311